

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第30週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第30週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第30週（令和4年7月25日から令和4年7月31日まで）

第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）RSウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。

手足口病の定点当たり患者報告数は4.92人と前週（2.11人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.27人と前週（2.24人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.32人と前週（3.22人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“小児の熱性けいれんやクループに注意～新型コロナウイルス感染症～”について取り上げました。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和4年第30週（7月25日～7月31日）に22063件となり、過去最多を更新しました。これに伴い小児の報告数も増加しており、川崎市内では11歳以下の報告数が2500人を超える週もみられます。熱性けいれんや、クループ（喉の奥が腫れ、特有の咳を伴う疾患）などが発生する率も増えているため、お子さんがり患した際の体調の変化には十分注意しましょう。

国内では、5歳から11歳の小児に対しても新型コロナワクチンが承認されています。入院予防効果や発症予防効果が期待されていますので、対象のお子さんに対しては、ワクチン接種を御検討ください。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

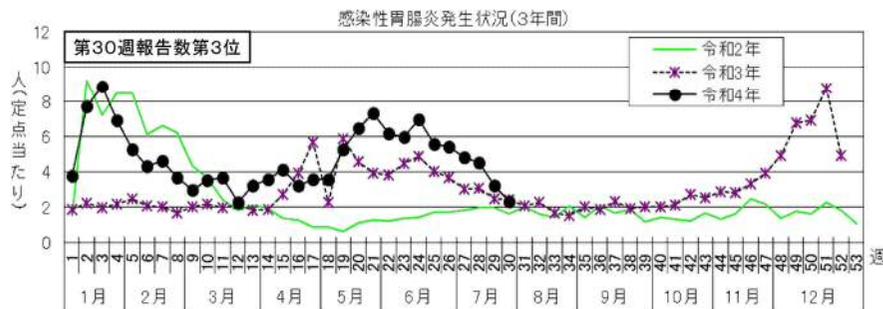
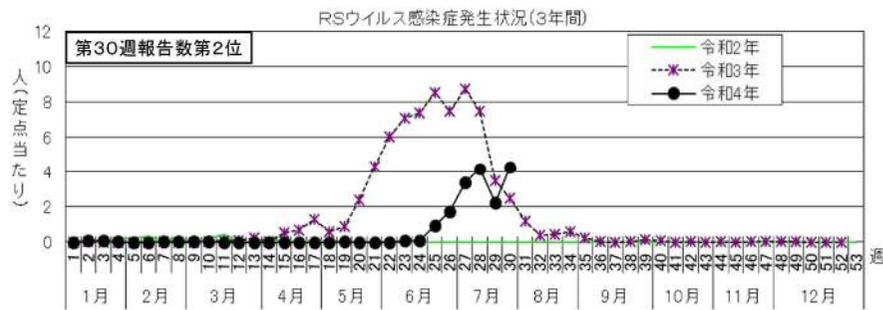
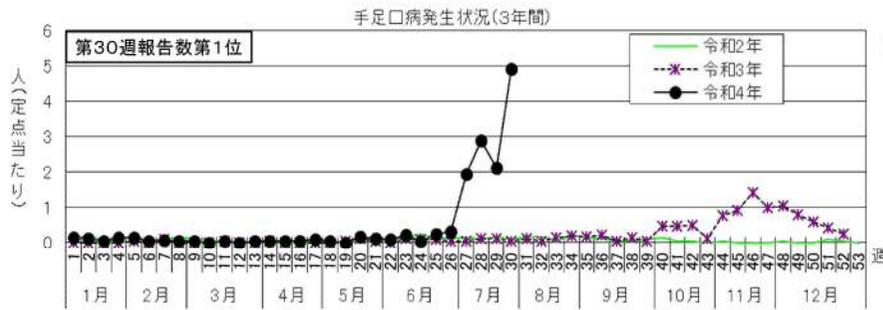
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年7月25日（月）～令和4年7月31日（日）〔令和4年第30週〕の感染症発生状況

第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) RSウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は4.92人と前週（2.11人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.27人と前週（2.24人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.32人と前週（3.22人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

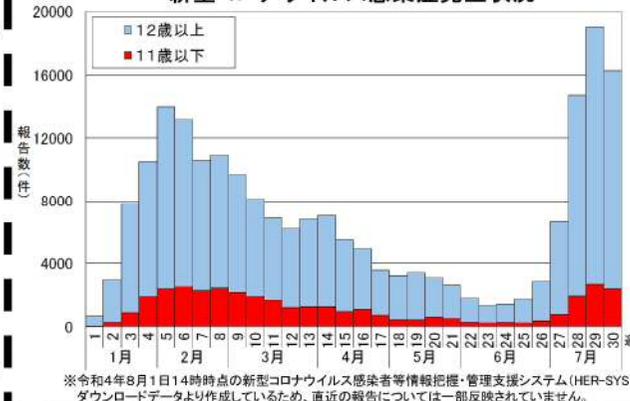


小児の熱性けいれんやクルーズに注意～新型コロナウイルス感染症～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和4年第30週（7月25日～7月31日）に22063件となり、過去最多を更新しました。これに伴い小児の報告数も増加しており、川崎市内では11歳以下の報告数が2500人を超える週もみられます。熱性けいれんや、クルーズ（喉の奥が腫れ、特有の咳を伴う疾患）などが発生する率も増えているため、お子さんがり患した際の体調の変化には十分注意しましょう。

国内では、5歳から11歳の小児に対しても新型コロナワクチンが承認されています。入院予防効果や発症予防効果が期待されていますので、対象のお子さんに対しては、ワクチン接種を御検討ください。

川崎市における令和4年の
新型コロナウイルス感染症発生状況



川崎市における 小児の新型コロナワクチン接種について

- 対象者
接種日において5～11歳の方
※原則として、接種日に川崎市に住民登録のある方
- 接種間隔
3週間の間隔をあけて、2回接種
- 使用するワクチン
ファイザー社製ワクチン（5～11歳用）
- 接種時の持ち物
接種券、予診票、本人確認書類（健康保険証等）、母子健康手帳
- 接種にあたって
・接種には保護者の同意と立ち合い（同伴）が必要
・予診票の署名欄には保護者の氏名を署名